

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、回復しつつある」

項目	前回（平成31年4月判断）	今回（令和元年7月判断）	前回比較
総括判断	回復しつつある	回復しつつある	

（注）令和元年7月判断は、前回平成31年4月判断以降、令和元年7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、スーパー販売が主力の飲食料品で堅調であり前年並みとなっているほか、コンビニエンスストア販売やドラッグストア販売が前年を上回っていることから、緩やかに回復している。生産活動は、電子部品・デバイスがスマートフォン向けで一部に持ち直しの動きがみられるほか、輸送機械が乗用車で堅調に推移していることから、緩やかに持ち直している。雇用情勢は改善している。

【各項目の判断】

項目	前回（平成31年4月判断）	今回（令和元年7月判断）	前回比較
----	---------------	--------------	------

個人消費	緩やかに回復している	緩やかに回復している	
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	改善している	改善している	

設備投資	30年度は増加見込み	令和元年度は増加見込み	
企業収益	30年度は減益見込み	令和元年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超に転じている	「下降」超幅が縮小	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	高水準となっている	高水準となっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果や復興需要を背景に、景気が回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性のほか、このところの天候不順などに留意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに回復している」

スーパー販売は主力の飲食料品が堅調で前年並みとなっているものの、百貨店販売は衣料品が天候要因等から低調となっており、前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は総菜等が順調なことから前年を上回っており、ドラッグストア販売は新規出店効果等により前年を上回っている。また、ホームセンター販売は前年を下回っているものの、家電販売はエアコン等が好調となっているほか、乗用車販売は新型車効果等により前年を上回っている。旅行はアジア方面やハワイ等が順調となっている。このように、個人消費は、緩やかに回復している。

#### (主なヒアリング結果)

- 調理に手間をかけない傾向の高まりから総菜や冷凍食品を中心に飲食料品が堅調となっている。そのほか大型連休の帰省客へのおもてなしから、寿司やオードブルが売れた。(スーパー、中堅企業)
- 気温の変動に合わせた品揃えができず衣料品の売行きがよくなかったものの、呉服や宝飾などの高額品に動きがみられた。(百貨店、中堅企業)
- 総菜の品揃えを充実させており、夕食用やお弁当用として仕事帰りに購入する顧客が増えている。(コンビニエンスストア、大企業)
- 飲食料品は売場面積の増加もあって引き続き好調なほか、日用品は洗濯洗剤が好調となっている。また好天に恵まれた5月は日焼け止めなどの動き出しが早かった。(ドラッグストア、大企業)
- 5月の気温上昇に合わせ、エアコンが伸長した。また、冷蔵庫や洗濯機は、大容量で高機能な製品が引き続き好調となっている。(家電量販店、大企業)
- 普通車は新型車効果でSUVが好調だったが、小型車は人気車種が発売から1年以上経過し動きが鈍くなっている。(自動車販売店、大企業)
- 大型連休は、国内では関西、沖縄などが好調だったほか、海外ではアジア方面に加え、例年よりヨーロッパ方面への動きも目立った。(旅行代理店、中小企業)

### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

電子部品・デバイスは産業機械向けなどで低調となっているものの、スマートフォン向けで一部に持ち直しの動きがみられる。輸送機械は乗用車が堅調に推移している。生産用機械は半導体メーカーが設備投資計画を見直している影響などから、一進一退の状況にある。このように、生産活動は、緩やかに持ち直している。

- 産業機械向けは、中国など国外に加え国内でも設備投資の動きが鈍いことから落ち込みが顕著となっている。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- スマートフォン向けは、中国メーカーからの受注により生産量が増加している。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 一部車種ではバックオーダーを抱え、作り切れない状況となっている。(輸送機械、大企業)
- 半導体メーカーによる設備投資の調整局面が続いている。(生産用機械、中堅企業)
- 中国向けの受注鈍化が長引いているが、国内、北米、欧州向けとも堅調となっている。(生産用機械、大企業)

### ■ 雇用情勢 「改善している」

雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移しているほか、完全失業率が低水準となっているなど、改善している。

- 製造業で生産水準に対し人手が過剰とならないよう、新規求人を抑える動きがみられるものの、引き続き建設業では技術者等の確保に苦慮しているようであり、全体としては人手不足の状況が続いている。(公的機関)
- 新規求職者数全体としては、減少傾向が続いている一方で、65歳以上の求職者は増加している。(公的機関)

- **設備投資** 「令和元年度は増加見込み」(全産業)「法人企業景気予測調査」平成31年4-6月期
    - 製造業では、電気機械等で減少見込みとなっているものの、輸送用機械、化学等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
    - 非製造業では、運輸・郵便等で減少見込みとなっているものの、金融・保険、不動産等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- |                                |             |
|--------------------------------|-------------|
| ➢ 生産ラインの改良投資や建屋増築工事により増加する見込み。 | (輸送用機械、大企業) |
| ➢ 営業店舗の移転、修繕により増加する見込み。        | (金融・保険、大企業) |
- **企業収益** 「令和元年度は減益見込み」(全産業)「法人企業景気予測調査」平成31年4-6月期
    - 製造業では、生産用機械等で増益見込みとなっているものの、輸送用機械、情報通信機械等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
    - 非製造業では、小売等で増益見込みとなっているものの、建設、専門・技術サービス等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
  - **企業の景況感** 「『下降』超幅が縮小」(全産業)「法人企業景気予測調査」平成31年4-6月期
    - 現状(平成31年4~6月期)は「下降」超幅が縮小している。先行きは令和元年7~9月期に「上昇」超に転じ、元年10~12月期に「下降」超に転じる見通しとなっている。
  - **住宅建設** 「前年を下回っている」
    - 新設住宅着工戸数をみると、持家、分譲が前年を上回っているものの、貸家が前年を下回っていることから、全体としては前年を下回っている。
  - **公共事業** 「高水準となっている」
    - 前払金保証請負金額は、震災関連工事等が減少しており前年度を下回っているものの、引き続き高水準となっている。
  - **消費者物価** 「前年を上回っている」
  - **金融** 「貸出金残高は、前年を上回っている」
  - **企業倒産** 「件数は前年を下回っており、負債総額は前年を上回っている」

### 3. 各県の総括判断

	前 回 (平成31年4月判断)	今 回 (令和元年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
青森県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢は改善している。
岩手県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに回復しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は改善している。
宮城県	緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡	個人消費は緩やかに回復しており、生産活動は回復に向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は改善している。
秋田県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は持ち直しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は改善している。
山形県	緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡	個人消費は緩やかに回復しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は改善している。
福島県	回復しつつある	回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに回復しており、生産活動はおおむね横ばいの状況にある。雇用情勢は改善している。